施策パッケージ名	基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発
担当府省	経済産業省
施策パッケージの目標	第４期科学技術基本計画で掲げられた、医療・健康サービス等の産業を活性化することによる、我が国の持続的な成長と社会の発展の実現に向けて、2020 年までに革新的医薬品、再生医療技術の実用化を実現する。
予算要求額等の合計	平成 24 年度　４億円（平成 23 年度　6.15 億円）
実施期間	平成 19 年度～平成 24 年度まで

【全体講評】

○「基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発」はがん、ワクチン、再生という課題を含む重要施策であり、経済産業省、文部科学省、厚生労働省が目指す橋渡し促進技術開発の構図の中で、経産省として企業との結び付けを目論んでいる狙いは意義がある。基礎研究から臨床研究への橋渡しという構成であり、その目的・目標、アプローチが適切に提案されていることから、重点施策パッケージとして、資源配分の重点化を行うべき対象と認められる。

○　ただし、臨床研究の段階となっている技術開発については、橋渡しの役割として国が取り組むべき範囲かどうか検討する必要がある。

○なお、本施策パッケージの政策効果を最大化するよう、文部科学省、厚生労働省との実効的な連携を引き続き継続することが必要である。

【目的・目標について】

○目標は適切であり、検証方法が明確。社会情勢から見ても妥当である。

○シーズが実用化の一歩手前まで来ているので臨床入りが期待され、強化される連携体制の中でヒトへの臨床応用の見通しが必要である。

○得られた科学的成果を産業に活かすことが重要な課題である。

【アプローチについて】

○取組方法が明確で、アプローチはとても良い。

○他方、参画企業の発展と加速に向けたベンチャーを含めた問題解決型支援策も考える必要がある。

〇研究開発のプロセスが各省庁で重ね、集約化した方が結果が出るという考え方もある。
【実施体制について】
〇関係省庁、企業、大学との連携役割分担ができており、適切な組織での明確な役割分担となっている。
〇各省庁が自らの立場で様々なプログラムを他省庁と independent に選ぶというより、重要なプログラムについて他面的に独自の視点からサポートしていくという方向とし、効率的に行ってはどうか。